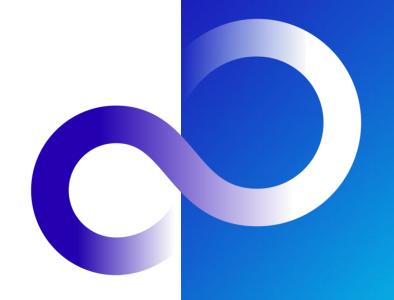


# **DP/Cライブラリ V7.2**

ご紹介



# PC-ホストデータ連携製品



### ■基本機能

PCーホスト間で下記機能を提供。

- ーアプリケーション間通信
- ーファイル転送
- 一DB転送
- ■基本機能の利用形態を3種類提供
- (1)業務支援

プログラムを作成しなくてもGUIで基本機能を利用可能。 また、複数の業務を同時実行可能。

# (2)OLE機能(オートメーション機能)

Visual Basic, Excel, Access等のOLE対応アプリケーションから利用可能

# (3)ユーザアプリケーションからの利用

Visual C++, COBOLからの利用。COBOLの場合SXGからの移行ユーザのためのNDCLインターフェースを用意。

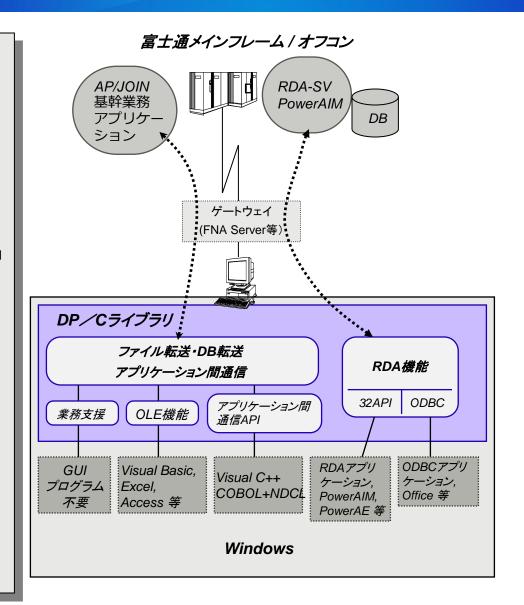
- ■RDA(リモートデータベースアクセス)機能
- -RDAリクエスタ

アドインソフト等から各種DBMS上のデータにアクセス。 各種DBMSを統一したインターフェースでアクセス。

ODBCドライバExcelなどODBC対応アプリからアクセス。

#### ■その他

- ーワンタッチでインストール(導入コスト削減)。
- ーオンラインヘルプの充実。
- -COBOL開発用環境、サンプルを用意



# データ転送機能



# ■データ転送機能

データ転送機能は、PCーホスト間のデータ転送を行うエンジン部分です。大別すると以下の4つの機能を提供してます。

- ーアプリケーション間通信
- ーファイル転送
- -DB転送
- -DB変換

# ◆アプリケーション間通信

ホスト、および PC上にアプリケーションを用意する事で、PCーホスト間でアプリケーション間通信が可能です。

# ◆ファイル転送(AP/JOIN連携)

ホストー PC間でファイルの送受信が可能です。 送受信対象ファイルはテキストまたはバイナリです。

# ◆DB転送(AP/JOIN連携)

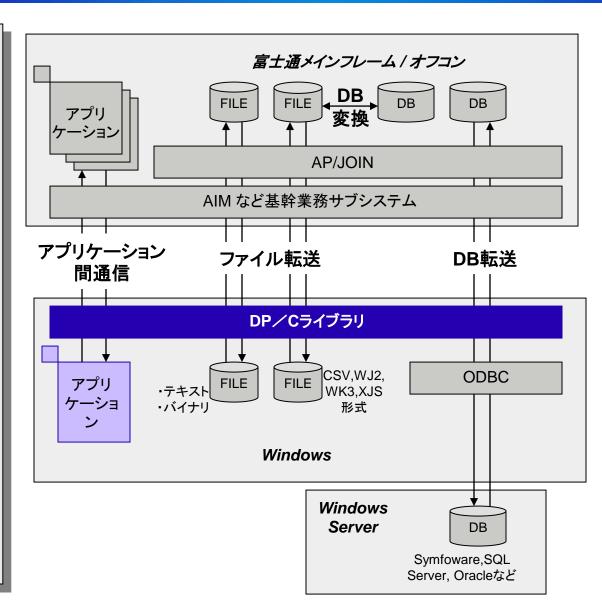
ホストデータベースからデータを抽出しPC上のデータベースへ格納、または、その逆が可能です。また、サーバ間も可能です。PC側のデータベースアクセスはODBC経由です。従って、対象データベースはSymfoware, Oracle, SQLServerなどの各種データベースとなります。

### ◆DB変換

ホストにファイルからデータベース、または、データベースからファイルへ変換を指示します。

#### ◆その他

ホスト側のアプリケーションを選択実行が可能です。



# 利用形態



# ■データ転送機能の利用形態を3種類提供

データ転送機能を利用するための形態は3種類あります。業務に合った利用形態を選択できます。

### (1)業務支援

プログラムを作成しなくてもGUIでデータ転送機能が利用可能です。例えば、DB転送であれば、対象となるデータベースおよび抽出条件などをGUIで定義し、実行させます。

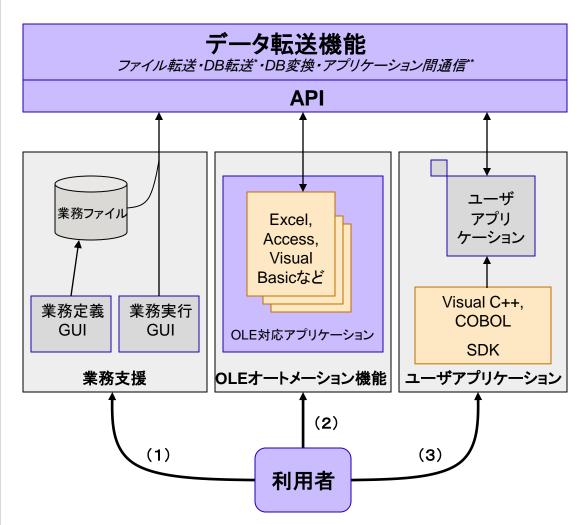
# (2)OLEオートメーション機能

OLEオートメーション機能は、Excel, Access, Visual Basic等のOLEオートメーション対応アプリケーションからデータ転送機能を利用するためのインターフェースです。例えば、Excelシートをホストのデータベースへ登録するのであれば、予め、

「保存(ファイル種=CSV)→ファイル転送→DB 変換」というExcelマクロを準備。Excelシート完 成後、マクロを実行する事でホストのデータ ベースへ登録できます。

# (3)ユーザアプリケーションからの利用

DP/CライブラリにはCOBOLならびにVisual C++で作成されたユーザアプリケーションから 利用するためのAPIが用意されています。API はホスト側と同等なインターフェースを提供しています。ユーザ専用のGUIを必要とする場合や、エラー処理などより木目細かな制御を必要とする場合などに本機能を利用できます。



\*:ユーザアプリケーションでは利用不可

\*\*:ユーザーアプリケーションでのみ利用可

# RDA(リモートデータベースアクセス)機能

# ■RDA機能

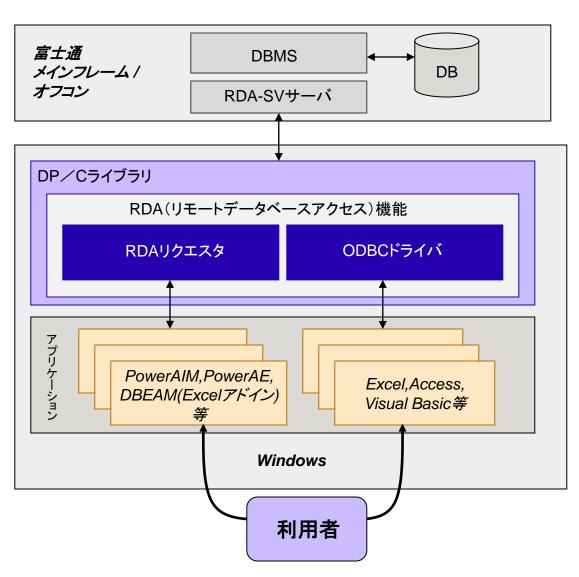
DP/Cライブラリにはホストコンピュータ上のデータベースを検索・更新するRDA機能があります。RDA機能は「RDAリクエスタ」と「ODBCドライバ」の2つのインターフェースを提供しています。

## ◆RDAリクエスタ

富士通メインフレーム / オフコンなど富士通データベースをアクセスするための統一したインターフェースを提供します。また、Windows上のSymfowareとも同一インターフェースとなっています。このインターフェースは、PC上のVisualC++アプリケーション、PowerAIM及びサードベンダーソフトであるDBEAMなどから利用できます。

## ◆ODBCドライバ

Microsoftが提唱するインターフェースです。このインターフェースを利用するアプリケーションは、Access, Visual Basicなど多種多彩で、これらアプリケーションからホスト上のデーターベースが利用可能となります。





# Thank you

